

## 序

学校長 渡 邊 弘

日本の近代公教育制度がスタートして、早130年以上がたちます。その間、各時代の社会的状況を背景に、さまざまな教育改革が行われながら今日に至っています。こうした中で、公教育が国家の経済的発展などに多大な役割を果たしてきたことは事実だと思えます。しかし、そうした役割を果たしてきた公教育が、今日、とりわけそれを取り巻く社会の諸問題—経済問題、環境問題、人口問題、IT問題等—と相俟って、さらには学校における青少年をめぐる諸問題などにより、根本から問われてきています。すなわち、地球人としての人間が善く生きていくためにこれから教育はどうあるべきか、あるいは学校の存在意義や役割とはそもそもどのようなものかといった問題です。

こうした時代の中で、特に学校教育上最も重要なことは、教員一人一人が、人間形成活動としての教育における人間観と形成観についての理念的考察を深めながら、これから未来を切り開いていく創造的主体としての子供たちに、家庭や地域との協働のもとで、どのように善い教育を行いうるかということではないかと思えます。

そして、それが具体的に子供たちの前に示されるのが授業です。したがって、学校における授業研究は、子供たちにより善い教育を提供するための重要な実践的課題と考えられます。今日の授業研究が、善い授業とは何かを問いつづけてきた先人たちの誠意と情熱によって築き上げられてきた土台の上に成り立っていることはいうまでもありません。

このような意味から考えた場合、公開研究会の重要性も自ずと理解されます。今回の初等教育公開研究会の目的は、公開授業を通して新しい小学校教育の在り方を提案することにより、参会の方々からご指摘をいただきながらより善い授業を再構築していくことです。

以上のような点を念頭におき、今年度本校では、昨年度立てた「自分らしい学びをつくる」「心をひらく」「学びをもとに生き方を考える」の三つの視点に基づく3年計画（研究主題「未来に向かって、自分らしい生き方を考える子供を育てる」）を踏まえながら、「子供が自分の学びを実感し、互いに心が響き合う授業の展開」を副主題とし、昨年度構築した授業像に迫るための具体策を、実践的な研究を通して明らかにしていきたいと考えています。

こうした目的を少しでも実現したいという考えから、教職員一同日々授業研究にとりくんできております。しかしながら、研究の構想や具体的な授業内容などについて不十分な点があるかと思えます。ご参会の皆さまには、研究の趣旨にご理解をいただきながら、さまざまな角度からご指導・ご助言をいただければと存じます。それによりまして、教職員一同さらに今後の授業研究改善に向け精進して参りたいと考えております。

最後になり恐縮に存じますが、本校の研究推進にあたりましては各方面から多大なご指導とご協力を賜りました。ここに厚くお礼申し上げます。特に、栃木県教育委員会、栃木県総合教育センター、栃木県市町村教育委員会連合会、栃木県小学校長会、栃木県小学校教育研究会、栃木県連合教育会、宇都宮市教育委員会、さらに宇都宮大学教育学部の諸先生方には常に細部にわたる懇切なご指導・ご助言を賜り感謝する次第です。

教職員一同心からお礼申し上げます。